森林やまがた

No.22　　1999　1月

唐松観音堂

山形市釈迦堂にあり、最上三十三観音５番目の霊場となっている。

歴史は古く、寛文元年（1661年）に京の清水観音の舞台を模して造られたのが初めといわれている。

現在の建物は、昭和51年に修復再建され、荘厳で朱色の美しい姿である。

目　次

唐松観音堂 …… 1
新春を迎えて …… 2
みんなで「ブナの森」を
つくろう!! …… 3
第12回山形県きのこ品評会 4
きのこアドバイザー誕生　5
ちょっと森林浴 …… 6
ふるさと林道「地蔵峠線」竣工 7
山のめぐみ（天童市） …… 8
山形の木の文化 …… 8
山の幸ア ラ カルト …… 9
ハーブ（ローズマリー） …… 10

「新春を迎えて」

山形県農林水産部参事兼
林政課長　大高　勇司

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

また、本県の林業の振興と森林の整備について、格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

森林は、木材の生産に加え、自然環境の保全、良質な水の安定供給、県土の保全、地球温暖化防止等、環境の保全にも大きく役立っており、森林の公益的機能を通してうるおいと安らぎをもたらすなど、県民の生活と深く結びついております。森林の役割に対する期待が高まる中で、森林とのふれあいや森林の保健・文化・教育的な利用に対する県民のニーズも多様化・高度化しております。

このような森林の公益的機能を総合的に発展させていくためには、適切な保育作業等により、健全な森林に維持管理していくことが重要であります。

県といたしましては、このような状況を踏まえ、市町村をはじめ、関係機関・団体と連携を取りながら、次のような諸施策を進めて参ります。

活力ある生産性の高い林業の確立を目指して、林道及びふるさと林道等の生産基盤の整備と、健全な森林整備や長伐期施業への移行のため五十年生までの間伐事業等を引き続き実施します。

高性能林業機械の導入促進や林業労働力を確保するため、林業従事者育成基金の助成事業と連携しながら、林業担い手の育成を推進します。

また、性能と品質が優れた木材製品を供給するため、葉付き乾燥材の普及に力を入れるとともに、ＪＡＳ規格材、乾燥材の生産を促進し、木材の天然素材としての優れた性質を広く宣伝して県産材の利用拡大を図るほか、木製土木用資材の開発、間伐材の利用拡大を積極的に進めます。

自然食品指向が高まるとともに、生産額が増加している特用林産の施設整備と併せて、きのこ銘柄化の促進、消費拡大のための県内外での展示即売会への支援、料理コンクール、料理教室を実施します。

山地災害防止、安全で住み良い生活環境や良質な生活用水の確保に資するため保安林を計画的に配備し、治山事業を積極的に推進するとともに、松くい虫等の森林被害の予防、駆除等を図り、健全な森林の造成に努めます。

さらに森林と人との共生を基本理念として、最上地域に「遊学の森」の整備を進めるとともに、緑を大切にする心を育み、県民総参加の森づくりの輪を広げ「交流広がる美しい県土」づくりを目指し、平成十四年に開催される「第五十三回全国植樹祭」の準備を進めます。

これら諸施策の推進に当たりまして、関係各位の一層のご理解とご協力をお願い致しますとともに、皆様方のご多幸とご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

みんなで「ブナの森」をつくろう!!

白鷹町ブナの森づくり実行委員会　会長　横澤米次

かつては日本の森の大部分を占めていたブナの森は人間の活動とともに里山から姿を消してしまいました。

そこで里山にブナの森を復活しようと、**「白鷹町ブナの森づくり実行委員会」**を組織して、去る十月二十九日、西に朝日連峰を望む白鷹山麓の国道348号線沿いの山で、五十人のボランティアの参加を得て**「ブナの森づくりの集い」**を開催しました。

植付作業スタート

企画にあたっての基本的な考え方は次のようなことです。

一、二十一世紀の森林づくりについて考え、理解を深める。

二、ブナの生態について勉強する。

三、若い人から高齢者まで幅広く参加していただく。

四、来年以降も森をつくり、考え、語り合う場として定着させていく。

ボランティア募集人員五十人としましたが、果たして何人の応募があるだろうかと心配でしたが、締切日まで定員を上回る申込みがあり、森林に対する一般市民の関心の高さにあらためて驚きました。

当日は朝方心配された天気もあがって汗ばむ程の秋晴れとなり、作業に先だって山形大学の野堀先生から**「ブナの森を育てる」**というテーマで、ブナの生態についてのお話しをお聞きしました。そのあと、植えつけの説明を行い、地元森林組合の苗畑で育てた朝日山系のブナ苗、一人約十本に、ボランティアとスタッフを合わせて七〇〇本の植栽を完了しました。

作業完了～いも煮とおにぎりで昼食

生まれてはじめて植付グワを手にしたという女子高生も、地元ボランティアの手助けを得ながら真剣に作業している姿が印象的でした。

参加ボランティアは十七才から七十四才と幅広く、また遠くは仙台市の方もおり、特に女性参加者が二十七人と過半数を占め、男性にもまして森林と環境に対する関心の高さが伺われました。

森林の持つ様々な価値を見い出し、機能を発揮させるため、二十一世紀に向けていろいろな森林づくりを林業者も、一般市民の方も一緒になって真剣に考え行動しようとする兆しが確められたことが大きな成果でした。そして今後この活動をどのようにして継続して行くかが重要な課題だと考えております。

「品質」の向上を目指し
第十二回山形県きのこ品評会

◇三つの行事を同時に開催

去る十一月三十日と十二月一日の両日、鮭川村中央公民館で、山形県きのこ振興会主催の山形県きのこ品評会、きのこ研修会、きのこ料理教室が開催されました。その概要をお知らせします。

◇きのこ品評会

県内各地区より出品された百二十数点が品質を競いました。厳正な審査の結果、最優秀賞は次の四点に決まりました。

※農林水産大臣賞
・えのきたけの部
伊藤文雄さん（鮭川村）

※林野庁長官賞
・しいたけ原木栽培の部
相蘇俊次さん（八幡町）

※山形県知事賞
・なめこ瓶栽培の部
松井恒夫さん（鮭川村）

※鮭川村長賞
・ひらたけ瓶栽培の部
吉住　誠さん（鶴岡市）

農林水産大臣賞（えのきたけ）

山形県知事賞（なめこ瓶栽培）

◇きのこ研修会

「きのこと健康」を主題に、研修会を行いました。参加者が百名を越える大盛況でした。

講師と演題は次のとおりです。

※「生活様式と生活習慣病」
・講師　新庄保健所長
早坂晃一さん

※「消費者から見たきのこ生産」
・講師　最上地区食生活改善推進連絡協議会長
伊藤嫩子さん

◇きのこ料理教室

きのこの消費拡大を目的に開催した料理教室には、最上地域一円から五十人の方々が参加しました。今年は最上地方の家庭料理を題材にしたもので大変好評でした。

料理の内容と講師は次のとおりです。

※「舞茸ごはん」「鮭の包み焼き」「なめこのみそ汁」「山菜漬け」「エノキの梅肉和え」
・講師　山形中央クッキングスクール校長
古田久子さん
・料理紹介者
黒沼昭子さんほか

（県林政課）

きのこ研修会

料理講習会の試食

「きのこアドバイザーの認定を受けて」

株式会社　河村式種菌研究所
齋藤良次

この度、平成十年度認定のきのこアドバイザーとなりました。

職業柄きのこの栽培については専門家ですが、きのこの同定や分類については素人同然であり、大変不安に感じています。

しかし、つくば市にある「森林総合研究所」での一週間の事前研修を通して強く感じたことは、自己研鑽を積み自分の一生の仕事としなければならないのではないかと思ったことです。

会社での業務は、きのこ種菌の製造と販売、それに栽培に関する指導ですが、きのこアドバイザーとしては、もっと地域の方々にきのこに関しての知識や情報を提供し、日ごろの食生活を豊かにすることや、秋のきのこ狩りの楽しさを増幅させる手助けをやらなければならないと思っています。

現在の飽食と消費の時代が進むにつれて、今後日本人は健康指向により益々きのこをよく食べる食生活になるだろうと言われています。そして、騒々しい都会を離れて、山や森林や川などの自然の中で遊ぶ機会を求めてくることと思います。

また、仲間ときのこ狩りに行っても、昔からその地域で食べてきた数種類のきのこしか利用せず、他のきのこを腐らせているのは残念に思います。これは、「きのこには食中毒の危険があるから、里山に生えるおいしい数種類のきのこにしか手を出すな」と、地域の先輩や祖父母から教えられた食文化の伝統があるからにほかならないと思いますが、もっと、きのこの食文化を豊かにしたいものです。

山形県は全国でも有数のきのこ生産県です。その多くはオガコを利用した菌床栽培です。施設を利用した低コストの菌床栽培による大量生産方式も進めていかねばなりませんが、本県の恵まれた森林資源と自然環境を活かし、きのこ本来の歯ざわりと風味を持つ、原木栽培の推進も必要と考えています。

本県の原木なめこの生産量は百三十二トン（平成九年次）で日本一を誇っていますが、なめこ総生産量（三千百四十八トン）の四・二％の量にすぎず、「山形のなめこ」として消費者のイメージするブランドになっていないと思います。希少になり、忘れられかけている本来の味を持つ物ほど、その地域の特製品として評価され求められる時代です。

今後、各方面の方々のご指導とご助言により、「山形の顔」になり得るきのこ作りの一翼を担えればと思っています。

ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

◆きのこアドバイザー制度のお問い合わせは山形県林政課林産振興係☎０２３－６３０－２６９２までご連絡下さい。

ちょっと森林浴⑧（西川町）
「県立自然博物園」

雪と森の木々が物語る水墨画のような世界。一見、すべての生き物が眠りに包まれているかのごとく静寂に包まれた冬の森も、思いきって中に入るといろいろ楽しいことが発見できます。

今回は、西川町志津にある県立自然博物園周辺の冬のブナの森を歩いてみましょう。

志津温泉をすぎるとすぐに除雪の終点となり、自動車はここまで。かんじきかクロスカントリースキー（テレマークスキーもOK）にはきかえ、六十里越街道を通り自然博物園へと向いましょう。ネイチャーセンターの手前から登りぎみに北へ進路をとると、すぐに広々としたブナの森が目の前に広がります。天気の良い日は、前方の青空のスクリーンに湯殿山や姥ケ岳の雄姿が映えます。このブナの森が今日のフィールドです。

姥ケ岳を背景に広がるブナの森

最初に発見するのは、森の中へと続くさまざまな動物の足跡。さっそく、アニマルトラッキングです。急に進行方向を変えた跡や、低木をかじった跡など、さまざまな痕跡が創造力をかきたてます。雪は冬の森のドラマを忠実に表現するスクリーンなのです。右手の方で何かが急に飛び出して行きました。ノウサギです。こちらの気配に気が付いたのでしょうか。森の奥深くへと走り去っていきました。

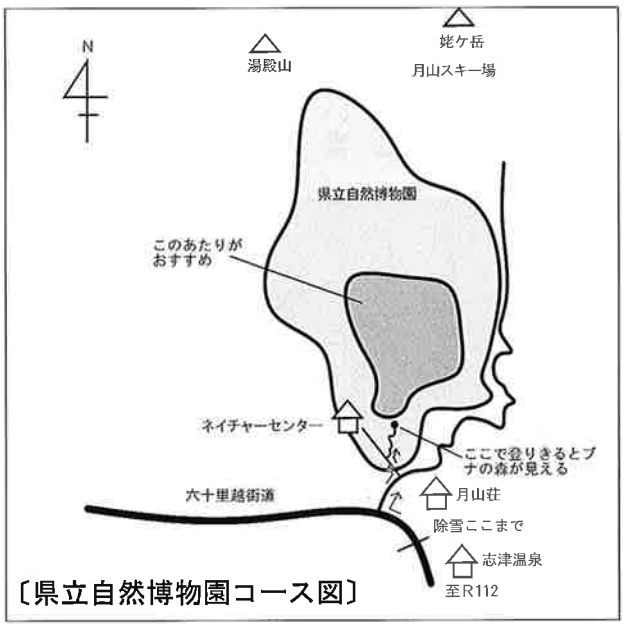
静寂に包まれた森の中

冬の森のおもしろい観察の一つに冬芽の観察があります。樹木の葉が樹種によって違うように、冬芽もさまざまです。特に、芽鱗と呼ばれる魚のうろこのようなものに包まれた冬芽は、じっと春の訪れを待っているかのようでいとおしくなります。このほかにも、冬の森では楽しい発見がたくさんあります。

きまぐれな冬の移動性高気圧が味方する数少ないチャンスをねらって、雪のフィールドにでかけてみませんか。

＊天気予報を十分に参考にし必ず二人以上、できれば行き先のフィールドにくわしい方とおでかけください。地図、コンパスは必携です。また、万一の場合に備えて食料（非常食）を携行しましょう。
＊ネイチャーセンターは冬季間（11月～4月）閉館です。

（県林政課）



〔県立自然博物園コース図〕

現地ルポ

ふるさと林道「地蔵峠線」竣工

―西村山郡西川町大字大井沢地内―

平成十年十一月九日（月）ふるさと林道「地蔵峠線」の竣工を記念して、竣工式が西村山郡西川町大字大井沢地内の林道終点「みはらし広場」において、また、祝賀会が同町大字水沢地内の「月山銘水館」において開催されました。

当日は、県農林水産部長、西川町長をはじめ、県・西川町関係者、地元地権者、建設業者、関係団体ら百人を超える方々が参加され、竣工式では神事、記念碑除幕、記念植樹が、また祝賀会では、感謝状の贈呈などが盛大に行われました。

全景

地蔵峠線は、主要地方道大江西川線と町道古寺線を結ぶ、現道幅員五・〇㍍の砂利道で、利用区域の大半が国有林であるために、国庫補助事業では改築できなかったのですが、林業の振興と農山村地域の定住環境の改善を目的としたふるさと林道緊急整備事業の創設により、この二つの路線と同じ規格・構造で改築工事が可能となったものです。

竣工記念祝賀会

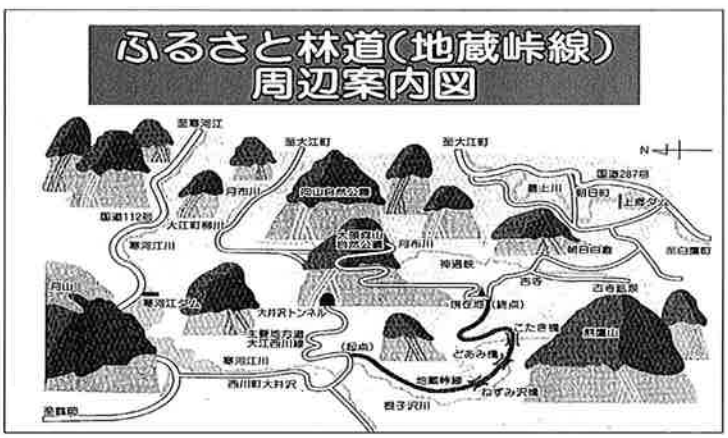
工事は県が事業主体となり、幅員七・〇㍍で三つの橋を含めた延長三、三二九㍍について、約十七億八千万円の事業費と平成五年度から平成十年度までの六カ年の事業期間を要しました。

「ふるさと山形の道」にも選ばれたこの林道の完成により、国道１１２号線寒河江ダムから西川町大井沢、大江町古寺を経て、朝日町の県道白滝宮宿線木川ダム付近まで、二車線の舗装道路でつながることとなりました。

これにより、林業においての利用はもとより、古寺地区の生活道路、古寺鉱泉や神通峡などの観光道路としてさらに利用されるものと思われます。

また、朝日町、白鷹町と庄内地方とのアクセス道路としての役割も大いに期待されています。

（西村山地方事務所林業振興課）



山のめぐみ

龍神の里 じゃがらむら

天童市が誇る「**龍神の里じゃがらむら**」は、観光のメッカ山寺と天童温泉を結ぶ東部スーパー農道沿いの貫津地区にあります。施設は、体験交流センター、林間広場、眺望の丘四阿、森林歩道等で何れも林構事業で整備し、平成八年六月にオープンしました。体験交流センターが拠点で、じゃがらむら女性の会のオリジナル製品『手打ちソバ・じゃがらソーメン・釜あげウドン』等のメニューをはじめ、毎週日曜日には、地元で採れた山菜、キノコ、漬物、農産物、杵うちモチ等の新鮮とお美味しさが大好評です。さらに、四季折々のイベントとして初夏のサクランボ刈とベニ花まつり、夏の流しソーメン、秋のモミジまつり等が開催され、どのまつりも県内外の来場者でいっぱいです。また、地元の特産物の加工所を計画中です。

イベント光景

このように、四季折々の自然、森のめぐみを大切にしています。課題は、スーパー農道の早期開通による入込者の拡大、冬季期間の運営と使用心得の遵守です。どうぞ、アウトドア志向の方、リフレッシュしてはいかがですか―。

（天童市農林課）

山形の木の文化（庄内）

本間家旧本邸

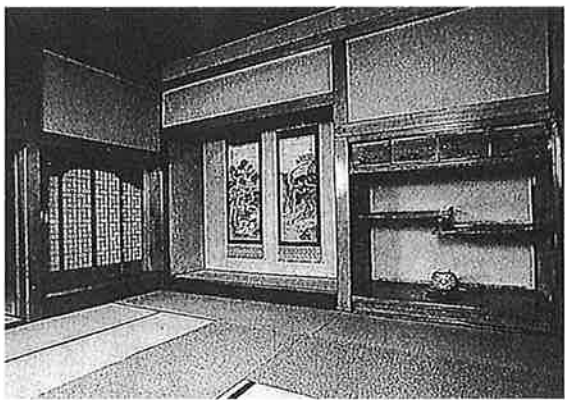
酒田市の中心部に位置する本間家旧本邸は、砂防林の造成や神社仏閣の建立などにより地域社会の発展に大きく貢献した本間家が、幕府巡見使の宿舎として建築したものである。

構造は木造平屋建、書院造り、母屋桁行三十三・六m、梁間十六・五m、屋根桟瓦葺。建築面積約六百六十㎡、二千石の旗本屋敷の格式を持つ長屋門（桁行十七・九m、梁間四・五m、ケヤキ造り）構えの建築物である。

特徴は、①同一建築物の左半が武家屋敷造り、右半が商家造りになっており、機能分担していること②使用している樹種は武家づりの方がヒノキを主体とし、商家づくりの方はスギを主体としていること③耐久性を増すため基礎を高くして通風を良くし、また天井も高くして二重長押としていること等である。

昭和二十八年に県有形文化財に指定され、昭和五十七年からは一般公開されている。酒田名所の一つとして、県内外から連日多くの参観者が訪れている。

（県林政課）


本間家旧本邸（付書院部分構造）

山の幸アラカルト

このコーナーでは、きのこや山菜を使った料理を紹介しています。

きのこ春巻き

◆材料（４人分）

えのきたけ、舞いたけ、しめじ、しいたけは適量、もやし１袋、塩少々、サラダ油大２、揚げ油適量、春巻きの皮10枚、片栗粉小１
A【豆板醤小１、酒大１、醤油小１】
B【卵白½個、小麦粉大１】

◆つくり方

①きのこは、適当な大きさに切る、もやしはひげ根を除く。
②中華鍋にサラダ油大さじ２を熱し、きのこともやしを強火で炒める。Ａを加えてさらに強火で炒め、片栗粉小さじ１を水小さじ２で溶いたものをよくからめ、バットにとって冷ましておく。
③②を10等分にして春巻きの皮で包み、端はＢを混ぜたものをのりにしてとめ、巻終わりを下にしておく。
④揚げ油を約160度に熱して春巻きを入れ、時々返しながらパリッとキツネ色に揚げる。
⑤揚げたてを２等分にして器に盛り、好みのたれで食べる。

◆ポイント

たくさんのきのこを、みんなでおいしくたくさん食べられるように考えた。味付けは豆板醤を入れ、から味を出したのでご飯のおかずにピッタリ。

第２回山形県きのこ料理コンクール
山形県きのこ振興会会長賞

舟形町
豊岡真里さん・渡辺由香さん・富樫知香さん

謹賀新年

やすらぎの緑の空間を創造し　山形の未来を考える

社団法人　山形県緑化センター

理事長　原田　克弘

山形市大字長谷堂字馬場2265番
TEL（023)688-6633　　FAX（023)688-6634

ハーブ

ローズマリー

ローズマリーは、和名をマンネンロウといい、地中海沿岸地方原産のシソ科の多年草です。針のような葉と森林を感じさせるスッキリした芳香が特徴です。

ローズマリーは、薬用植物として、強心、強壮、鎮静、消化、利尿などに効果があるとされ、美容的にも皮膚をひきしめて活力を与えてくれるハーブとして昔から使われてきました。

育て方のポイント

排水が良く、やや石灰質の土を好み、日当たりと風通しの良い所で乾燥気味に育てます。種子まきの適期は春ですが、発芽まで一カ月前後かかることもあるので、挿し木がおすすめです。

梅雨時に蒸れないように収穫を兼ねて枝すかしをし、開花後に切り戻しをしておくと、よく成長します。

利用法

ローズマリーは、何百年もの間、伝統的に、スキンケアとヘアケアに用いられてきました。浴湯料には、生葉なら軽く一握り、乾燥葉なら大さじ四～五杯を小袋に入れて沸かせば、疲労回復に役立ちます。

また、濃いめに煮出した浸出液は、ふけを抑え、髪をさらさらにしてつやを出す効果のヘアリンスになります。料理に使う時は、香がきついので使いすぎは禁物です。肉を焼く前に直接葉を貼りつけたり、ハーブバターやじゃがいも料理に合います。ハーブティーやワインの風味づけ、ポプリや染色にも使われます。ローズマリーには、立性タイプと匍匐タイプがあり、立性タイプは植込みや垣根に、匍匐タイプはロックガーデンや寄せ植えなどに最適です。

（山形県薬用植物園）

Rosemary
ローズマリー／シソ科
花言葉◆記憶
永遠の愛の象徴「海のしずく」という別名もあります。花嫁への贈り物にSomething Blue. 1つ青いものを添えると幸福になると言われます。

── 全国食用きのこ種菌協会会員 ──
〒999-7757
山形県東田川郡余目町払田字村東17-2
株式会社
河村式種菌研究所
お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124
青森県営業所：青森県三戸町同心町　電話 0179(23)3582

謹賀新年
きのこ作りなら。
◉形質を誇る！
○しいたけ・なめこ
ひらたけ・まいたけ・ぶなはりたけ
くりたけ・たもぎたけ・むきたけ
その他きのこ種菌

謹賀新年

信頼の森林づくり

地域に根ざした豊かな森林をつくります
いろいろな森林体験ができます

財団法人山形県林業公社
山形市鉄砲町二丁目19番68号
TEL023−623−3505

謹賀新年

環境を守ろう　森林を育てよう

山形県森林土木建設業協会
会長　荒井　康之助
山形市桜町２−35(林業会館内)
電話（023)632−3893　FAX（023)632−5454

謹賀新年

治山　環境を守ろう、森林を育てよう　林道
治山・林道で豊かな県土

山形県治山林道協会

会長　後藤　源

〒990-0045　山形市桜町２番35号　林業会館内
ＴＥＬ　０２３−６２２−８８２３

賀正

緑のアドバイザー

財団法人 林野弘済会秋田支部　支部長　石岡　保

〒010-0001 秋田市中通５−９−16(秋田営林局内)
TEL０１８(８３２)４０４０　FAX０１８(８３５)６８３７

山形出張所　〒990-0021
山形市小白川町5-28-8(蔵王森林センター内)
TEL･FAX０２３(６４１)１０２４

謹賀新年

21世紀の緑を美しく
安らぎと輝きの森林と水を求めて

社団法人 山形県林業コンサルタンツ

理事長　後藤奎三

山形市松栄一丁目５番41号　TEL(023)647－1800
FAX(023)647－1801

広げよう 緑をはぐくむ輪

財団法人 山形県緑基金

賀　正

事務局
〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265
（山形県緑化センター内）
TEL・FAX（０２３）６８８－７８５５

木材市況

（11月10日現在）

	樹材種	材長	品等	1m³当り価格	前月比較
素材	スギ小丸太	3.65～4.00m	込	14,700円	－100円
	スギ中丸太	〃	〃	19,200円	－200円
	マツ中丸太	〃	〃	15,800円	－600円
	米ツガ(セミカスケード)	6.0m上	普通材	23,400円	＋200円
	エゾマツ小丸太	定尺	〃	14,900円	－900円
	エゾマツ中丸太	〃	〃	16,300円	－300円

	樹材種	厚	幅	長	品等	1m³当り価格	前月比較
製品	スギ母屋	10.5cm	10.5cm	3.65～4.00m	特等	57,100円	－1,300円
	ｴｿﾞﾏﾂ野縁	3.6cm	3.6cm	3.80～4.00m	〃	57,200円	－300円

森林やまがた１月号　平成11年１月１日発行　通巻第22号
編　集　山形県林業改良普及協会　山形県
発　行　山形県林業改良普及協会
〒990-0045 山形市桜町２－３５　林業会館内
☎(023)622－8823　FAX(023)633－8506

印刷所　大場源太郎印刷所　定　価　一部二一〇円